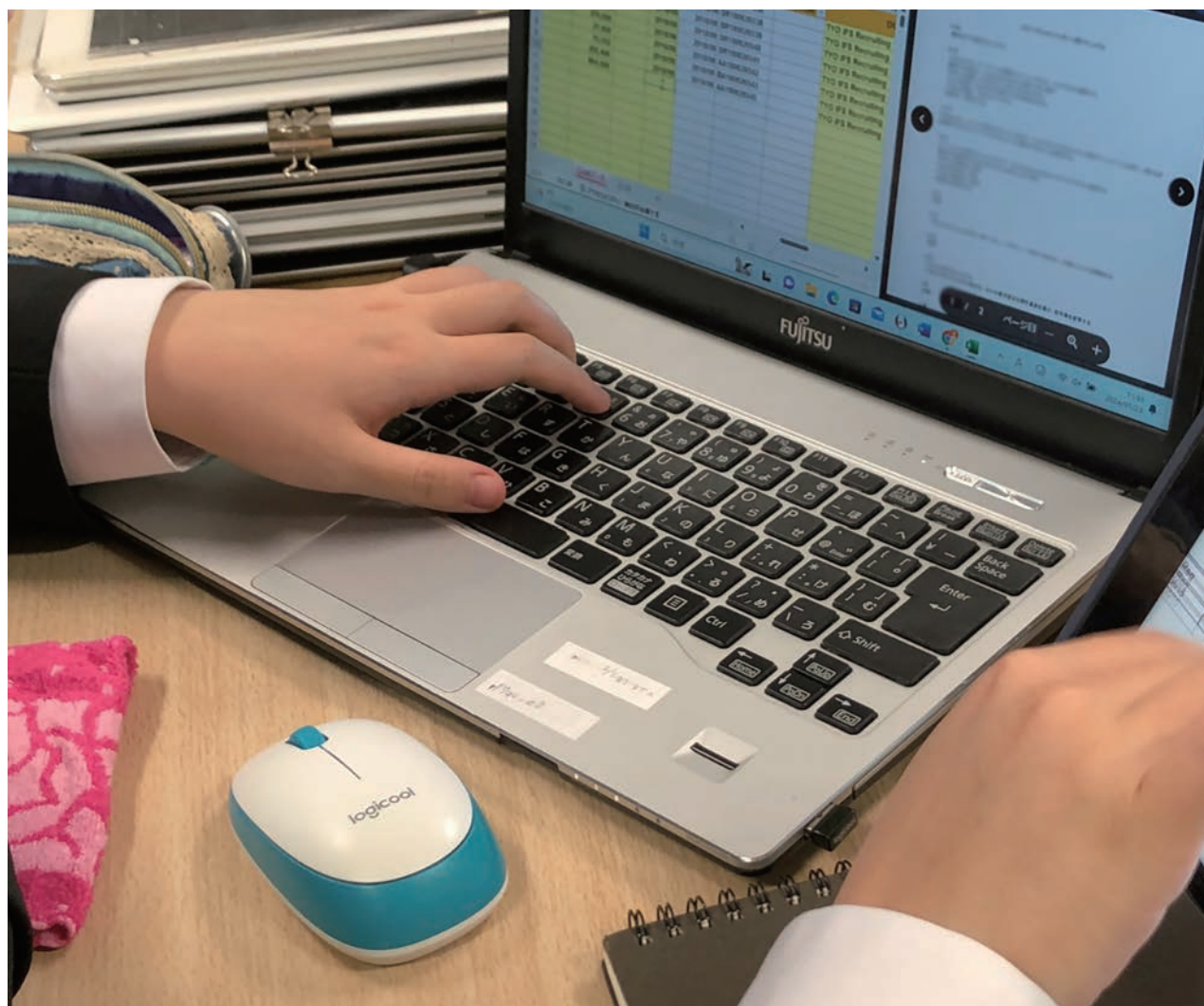


IDDNewsletter..... 2

February
2024



特集1

学校における芸術鑑賞と体験

～デフ・パペットシアター・ひとみ～による身体表現ワークショップ～

令和5年12月8日金曜日、専攻科情報デザイン科では、科目「造形デザイン」の授業内容として、文化庁「学校における地域活性化のための文化芸術子供鑑賞・体験事業」芸術家の派遣事業の枠組みを利用し、公益財団法人現代人形劇センターデフ・パペットシアター・ひとみの皆様をお招きした表現活動に係るワークショップを行いました。その時の様子について御紹介いたします。

特集2

「給食だより」をデザインする

～OJT的な実践力育成と「食べる」活動の編集工学～

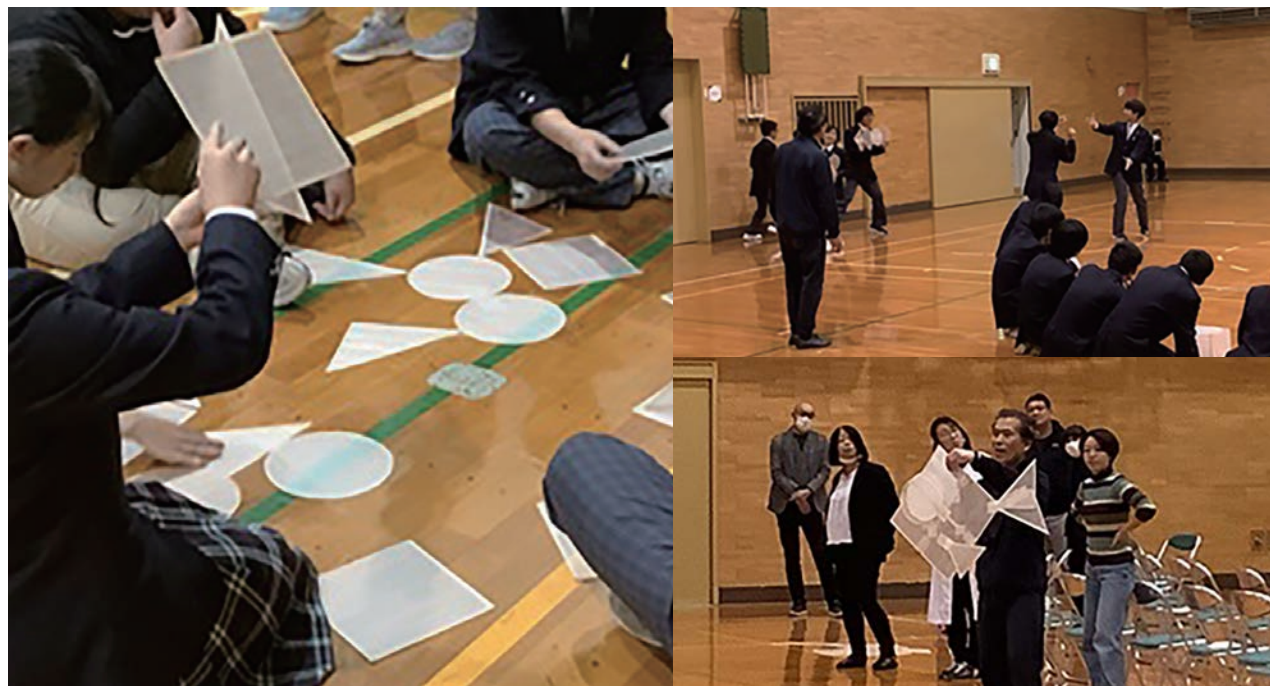
専攻科情報デザイン科では、本校で実施している学校給食及び寄宿舎給食の献立表やそれぞれの献立に係るトピックを掲載した「給食だより」のグラフィックデザイン及びDTPを教材として請負い、制作活動を展開しています。今回は、その活動の一端について御紹介させていただきます。

特集1

学校における芸術鑑賞と体験

～デフ・パペットシアター・ひとみ～による身体表現ワークショップ

令和5年12月8日金曜日、専攻科情報デザイン科では、科目「造形デザイン」の授業内容として、文化庁「学校における地域活性化のための文化芸術子供鑑賞・体験事業」芸術家の派遣事業の枠組みを利用し、公益財団法人現代人形劇センターデフ・パペットシアター・ひとみの皆様をお招きした表現活動に係るワークショップを行いました。その時の様子について御紹介いたします。



令和5年12月8日金曜日、専攻科情報デザイン科では、科目「造形デザイン」の授業内容として、文化庁「学校における地域活性化のための文化芸術子供鑑賞・体験事業」芸術家の派遣事業の枠組みを利用し、公益財団法人現代人形劇センター デフ・パペットシアター・ひとみの皆様をお招きした表現活動に係るワークショップを行いました。

本授業においては、大変貴重な機会でありますので、本科生徒の皆様にも参加いただき、結果的には全校生徒学生が集う大きな授業となりました。

ワークショップでは、ろう者の劇団員の方のネイティブな手話による指示を受けつつ、それぞれの生徒・学生がアブダクションをフル活用した活動が展開されます。テーマは、「○△□で何ができる」で、単純な幾何形体から何かを見立て、表現する活動を行いました。

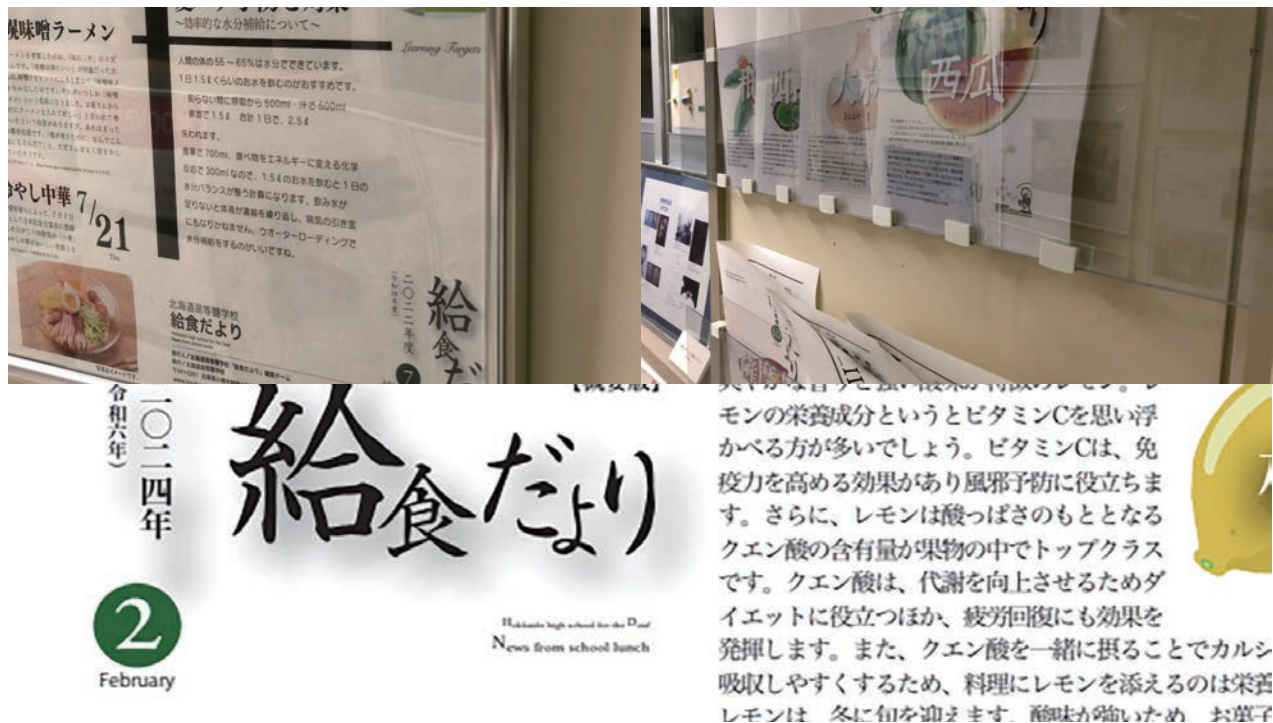
そもそも美術的な表現は、「頭や心の中になる「何か」をどう表すか」というよりは「今、目の前にある形を何に見立てるか」という活動です。つまり、今見えているものと、描いたり作ったりしているものの間には、直接的なつながりはないということになります。

本ワークショップは、このような、表現における本質的な「見立て」の要素を、非常にプリミティブに、かつ、本質的に取り上げられたものであり、非常に濃厚で有意義な活動だったと思われます。

微細な動きの違いがもたらす意味内容の大きな違いに、どれだけ気づくことができたか。自分が表した動き方の根拠を探り、探った結果を説明できるか。本質的な価値が試されます。

デフ・パペットシアター・ひとみの皆様をはじめ、関係各位の皆様、御協力ありがとうございました。

IDDN



特集2

「給食だより」をデザインする

～OJT的な実践力育成と「食べる」活動の編集工学～

専攻科情報デザイン科では、本校で実施している学校給食及び寄宿舎給食の献立表やそれぞれの献立に係るトピックを掲載した「給食だより」のグラフィックデザイン及びDTPを教材として請負い、制作活動を展開しています。今回は、その活動の一端について御紹介させていただきます。

専攻科情報デザイン科では、本校で実施している学校給食及び寄宿舎給食の献立表やそれぞれの献立に係るトピックを掲載した「給食だより」のグラフィックデザイン及びDTPを教材として請負い、制作活動を展開しています。

元々は、本校の栄養教諭がワープロソフトで制作していましたが、コロナ禍における給食実施において、業務過多の状況があったことが直接のきっかけにはなっていますが、ありふれた学校内の刊行物のデザインに風穴をあける、という情報デザイン科制作チームの思い入れ、のようなものもあったかもしれません。

今年度の専攻科2年生の選択科目「DTP II」においても、引き続き制作を行っていますが、各年の学生の技術力は一定ではありません。あくまで教材としての利用になるので、実際に使用するものを制作する以上、確かに納期を守ることや一定のクオリティは求められますが、それ自体が目的化するものではありません。それぞれの学生が、自身の制作するデータに正しいプライドを持ち、こなす、のではなく、良いものをしっかり作るのだ、という意識を持ちつつ、OJT的なトレーニングの場を構築することが重要と考えています。

また、実際に「食べる」という、最も感覚的に受け止めやすく、日々実体験を繰り返し、体で構成要素がわかる活動、それが整理され、情報を載せていくプロセスは、学びの言葉としての言語活動、編集工学と還元しても良いと思いますが、非常に具体的で明示的であり、学びとして良質な活動につながるものと考えています。

負担荷重となることは避けなければなりませんが、良い意味での緊張感を学生に味わせつつ、「よい印刷物」づくりに励みたいと思います。

IDDN

Contents

特集1

2 学校における芸術鑑賞と体験

～デフ・パペットシアター・ひとみによる身体表現ワークショップ～
令和5年12月8日金曜日、専攻科情報デザイン科では、科目「造形デザイン」の授業内容として、文化庁「学校における地域活性化のための文化芸術子鑑賞・体験事業」芸術家の派遣事業の枠組みを利用し、公益財団法人現代人形劇センター デフ・パペットシアター・ひとみの皆様をお招きした表現活動に係るワークショップを行いました。その時の様子について御紹介いたします。

特集2

3 「給食だより」をデザインする

～OJT的な実践力育成と「食べる」活動の編集工学～
専攻科情報デザイン科では、本校で実施している学校給食及び寄宿舎給食の献立表やそれぞれの献立に係るトピックを掲載した「給食だより」のグラフィックデザイン及びDTPを教材として読みたい、制作活動を展開しています。今回は、その活動の一端について御紹介させていただきます。

Welcome to Information Design Department !!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科学科だよりをお読みいただきまして、ありがとうございます。

本校情報デザイン科では、全国から学生を募集しております。

寄宿舎があり、道内外に関わらず入舎可能です。土日祝日も開舎しておりますので、遠方からの入舎も安心です。御興味のある方は是非本校に御連絡ください。

詳しくは、本校 web サイトにて情報デザイン科のページを御覧ください。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

February 2024 2

IDDNewsletter February 2024

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。



専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。(いわゆる「準ずる教育」の教育課程です)
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト(注1)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象(注2)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。(例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！)
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」(注3)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね(「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等)に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受たり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い(注4)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

注1：現在、学校で材料費等は徴収していません。授業毎に使用する材料等は、すべて学生自身で準備し、学校に持参していただきます。

注2：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。

注3：普通校には通常ない領域で、障がいそのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般をとおして行われます。

注4：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障がい者の実際の社会での有り様においては、日本手話を母語とする「ろう者」と聞こえづらけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分かれます。

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

ファックス：0134-62-2663

※入試前まで教育相談等に対応できます。

一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。